

★基本目標：Ⅱ感動と活力に満ちた競技スポーツ

推進項目	計画(PLAN)		行動(DO)	評価(CHECK)	改善(ACTION)
	令和2年度事業(予算額)	事業内容及び課題等	当該年度事業の現況	スポーツ推進審議委員会の意見	令和3年度予算要求に向けて
(1) トップアスリートの育成・強化の推進	○白崎資金スポーツ指導者養成委託料(680千円) 前年比:80千円 減	・トップアスリートを育成できる指導者の養成と選手の育成。 ・全国に通用するトップアスリートを育成するためには、中学校や高校におけるスポーツ環境の整備及び選手の育成・強化が課題となっている。	・「研修受講 → 必ず指導をさせる → 実績を積む」のようなサイクルの確立 ・新型コロナウイルスの影響も鑑み、WEB 会議システムを活用した研修会の実施を検討中。	・数年おきに、酒田市のスポーツ団体で合同の講演会(市民参加型)等が開催できれば良い。 ・事業の対象や手法の見直しを検討する必要がある。 ・課題に対するアプローチが明確でない。	・スポーツ団体(スポ少本部、スポーツ推進委員会等)と合同の講演会・研修会(市民参加型)の開催に向けて検討をしていく。 ・過去に開催実績のない「アスリートの栄養・食事」「スポーツ心理学」など新たな分野の内容も検討するよう委託先へ依頼していく。
	○県駅伝酒田飽海実行委員会負担金(1,000千円) 前年比:同額	・近年は優勝チームとのタイム差も大きく、高校生・大学生など若い世代の競技力向上が喫緊の課題となっている。 ・選手強化の一環で、他の陸上大会に出場していることから、強化費のあり方について検討が必要。 ・山形新聞社が主催する大会であり、参加の是非や事務局のあり方について検討が必要。	・新型コロナウイルスの影響により大会中止。	・市内中継所の通過を楽しみにしている市民が多く、選手の発掘やアスリートとしての目標となっている。強力な支援が必要。	・令和3年度は新型コロナウイルスの影響により、企業等からの協賛金が大幅に減少すると思われるため、強化費の支出等、見直しを図りながら、令和2年度同様の支援をしていく。
	○県ジュニア駅伝酒田市実行委員会負担金(予算措置無) 前年比:500千円 減	・山形県が主催しており、8月の第1週日曜日に開催されている。 ・日程がスポ少や部活動等の大会と重複し、児童生徒に参加依頼をしても断られることが多く選手の確保が課題となっている。	・東京2020オリパラ開催が延期になったが、R2年度は中止。	・酒田市の大会結果を楽しみにしている市民が多く、選手の発掘や出場の見直しを検討する必要がある。課題をクリアして、大会に出場しやすい環境の醸成。 ・小体連、中体連と協力して出場選手の確保対策が必要。	・東京2020オリパラ開催が延期になったため、R3年度も中止。 ※小体連、中体連、陸協の関わり等を踏まえ、実行委員会組織の再編成を検討。
	○酒田市体育協会事業補助金(12,211千円) 前年比:同額 ◆関連目標:Ⅱ感動と活力に満ちた競技スポーツ (2)競技スポーツに対する推進体制の充実 (3)トップレベルのスポーツに触れる機会の創出	・競技団体の育成強化、スポーツ指導者の育成・資質向上、スポーツ教室開催等による競技者の拡大・普及 ・アスリートの育成、強化 ・各競技団体との連携 ・全国大会、東北大会をはじめ、実業団大会等の誘致	・新型コロナウイルスの影響により6月開催までの各種大会が中止となっている。	・体育協会の要否を明確にすべき。必要ならば、補助金等で支援すべき。体育協会としても加盟団体からの協力をもっと仰ぐべき。 ・事業対象や手法の見直しを検討する必要がある。 ・各種競技大会による経済波及効果はどれくらいあったのか、調査すべき。 ・大会開催の周知方法を検討すべき。	・新型コロナウイルスの影響もあり、東北・全国規模の大会開催については不透明な部分があるが、アスリート育成などの競技力向上及び指導者養成はR3年度も必須である。 ・コロナ禍だからこそ、スポーツ・運動をする大切さを市民へ呼びかけ、スポーツ実施率を向上させる役割を担ってもらうよう支援していく。
(2) 競技スポーツに対する推進体制の充実	○スポーツ振興激励金交付事業(2,622千円) 前年比:563千円 減	・R1交付実績 全国 216人(うち国体59人) 東北 56人 計 272人(105人減)	・激励金の交付要綱等をHP等で周知するとともに、体育協会評議員会や市召集校長会を通じて、各種団体へ対してもPR。	・全国大会、東北大会等への出場を励みにしている選手が多く、激励金の交付は選手の発掘やアスリートの活躍に繋がっている。 ・激励金の底上げを検討してはどうか。	・R2年度同様、全国大会及び東北大会へ出場する選手に対して激励金を交付していく。
	○白崎資金スポーツ優秀選手表彰(347千円) 前年比:67千円 増	・経費削減及び事務軽減の観点から、白崎資金表彰と市体育協会表彰の合同開催を、R2年度から、統合をR3年度から実施予定。	・新型コロナウイルスの影響により、全国、東北規模の各種大会が中止となっている状況で、表彰対象者の激減が予想される(表彰人数が少ない場合は合同で表彰式を実施予定)。	・体育協会表彰と統合して、幅広く表彰すべきと考える。 ・市と体協の表彰規定が違うので、納得いくすり合わせが必要。	・R3年度からの統合に向けて、体育協会と協議を重ねてきたが、新型コロナウイルスが収束するまで現行のまま事業実施する(表彰人数が少ない場合は合同で表彰式を実施予定)。
	○体育大会負担金(1,160千円) 前年比:40千円 減	・体育協会加盟競技団体及び市民に、広くスポーツの実践の機会を与え、市民の健康維持増進とスポーツの普及振興並びに競技力向上を図る目的で開催している大会。 ・各競技大会の数が増えていることから、体育大会の継続、廃止について各競技団体に一任したい。 ・市から負担金としての予算措置はしない方向で検討。	・R1年度…小学生1,051人(26.4%) 中学生1,742人(43.8%) 高校生319人(8.0%) 一般867人(21.8%) ・令和2年度大会は新型コロナウイルスの影響により中止。	・体育大会の役割を果たせたのか、検証が必要。 ・支援と、費用の問題が残る。 ・各競技団体との開催方法について検討が必要。	・各競技における上部団体ガイドラインを基に、新型コロナウイルス感染症対策を万全にして安全安心な大会運営ができるよう支援をしていく。 ・競技団体にも一定程度の開催経費負担(金銭的負担)をお願いしながら、市体育大会のあり方(事業スクラップ:各競技団体へ移行など)について検討していく必要がある。
	※スポーツ振興総務管理事業 ○山形県体育協会負担金(236千円) 前年比:同額 ○山形県スポーツ振興21世紀協会負担金(1,065千円) 前年比:同額 (※モンテディオ山形への支援)	・市町村応援デーの積極的な周知によるトップレベルの競技観戦。 ・公益財団法人の活動とはいえ、1競技(サッカー:モンテディオ山形)に特化した支援であるため、負担金のあり方(額)を検討が必要。	・モンテディオ山形の市町村応援デーについては、市広報等でPRを図っている。	・アランマーレの支援にシフトできないか。 ・酒田市にとってメリットはあるのか。支援の在り方について、再考すべき。 ・モンテディオ山形の応援デーをどれくらいの市民が知っているのか、周知方法を工夫すべき。	・ホームゲームの開催については、今までどおり市広報やSNS等で周知を図る。 ・施設使用料については、モンテディオは全額負担。アランマーレは、国体記念体育館の使用料(冷暖房費)は全額免除としている。 ・一企業スポーツである以上、自助努力を基本とした活動としながらも、状況に応じて一定の支援をしていく。
	○アランマーレ後援会会費(30千円) 前年比:同額	・地元企業チームとの連携によるジュニア選手の育成、トップレベルの競技観戦	・後援会会費として支援(10,000円×3口)	・アランマーレにもっと支援の強化はできないのか。継続していくべき。	・R2年度同様とする。
(3) トップレベルのスポーツに触れる機会の創出	○みなと酒田トライアスロンおしんレース実行委員会負担金(1,309千円) 前年比:同額 ◆関連目標:Ⅲスポーツによる賑わいとまちづくり (1)スポーツツーリズムの推進	・全国各地より約400名のトライアスリートが出場し、地元からも約600名のボランティアの協力により開催される大会。大会運営費の確保、大会運営体制に苦慮している。 ・R2年度から大会への支援(スタンス)が「補助金」から「負担金」となり、今後も市が「共催」として支援していくことに決定。	・新型コロナウイルスの影響により大会中止。 ・2020東京オリパラ延期により、ニュージーランドのトライアスロンチームの酒田市での事前キャンプも延期(2021年)	・記念大会としての期待も大きい。全国だけでなく、国外からの参加者も増えてきているが、市民の観戦が少ない。 ・事業の対象や方法について検討する必要がある。 ・他団体と連携して取り組むことで、市全体の盛り上がりにつながる。	・2020東京オリパラ延期に伴い、延期となったニュージーランドのトライアスロンチームの酒田市での事前キャンプの受入に向けて、交流観光課と連携し万全な体制で臨む。 ・市共催事業として、関係団体と連携しながら2020東京オリパラ大会の前段大会として盛り上げていく。

★基本目標：II 感動と活力に満ちた競技スポーツ

推進項目	計画 (PLAN)		行動 (DO)	評価 (CHECK)	改善 (ACTION)
	令和2年度事業 (予算額)	事業内容及び課題等	当該年度事業の現況	スポーツ推進審議委員の意見	令和3年度予算要求に向けて
	○全庄内スキー選手権大会補助金 (727千円) 前年比:同額	・青少年の健全育成をはじめ、冬季スポーツ振興の一環として開催しているもので、令和2年度で74回を数える歴史ある大会。 ・参加者の減少、使用機械の経年劣化なども含めて大会運営体制に苦慮している。 ・一競技大会であるため、市の補助金が無ければ開催できないというスタンスを是正したい。	・R元年度は雪不足のため中止。	・松山スキー場を会場として開催しなければならないのか。 ・冬季のスポーツ振興を継続してほしい。 ・単発ではあるが、県外からの参加者があれば経済波及効果も見込めると思うのだが。	・令和2年度同様、冬季スポーツ振興を支える大会として継続支援していく方向だが、実行委員会で運営できなくなった場合は、開催しない方向。
	○東北総合体育大会 ・バレーボール競技補助金 (214千円) ・相撲競技 (280千円) ○酒田市武道団体協議会演武会補助金 (100千円) ▽アランマレやモンテディオ山形の地元開催試合の情報発信	・東北総合体育大会(ミニ国体)の開催に対する補助金。R1年度の東北大会は山形県を中心とするもの。 ・酒田市武道団体協議会演武会は5年に1度の開催。	・東北総合体育大会(ミニ国体)、武道団体協議会演武会※とも新型コロナウイルスの影響により大会中止。 ※柔道、剣道、弓道、少林寺拳法、空手道、躰道、合気道の7競技。	・運営の苦勞と、大会の充実を考慮にいれば、支援を拡充すべき。	・R3年度は、東北総合体育大会(相撲)、全日本シニア体操競技選手権大会、武道団体協議会演武会の開催が予定されている。 ・本市を会場に開催される高レベルの競技大会、スポーツイベントに補助金を交付し支援していく。

目標数値について

・団体競技と個人競技で出場人数が異なるため、成果を人数の増減で図ることができないと考え、種目数とするもの。

【目標数値】

国民体育大会への出場種目数 ⇒ 20種目以上 (R01: 20種目)
(H31: 19種目)